商学部創立50周年にあたって

専修大学名誉教授
第9代商学部長
松原　成美

1. はじめに

この度，商学部が創立50周年を迎えると聞き，創立時に教授会の末席に連なっていた者としては，誠に慶賀の念に堪えない。川村晃正商学部創立50周年記念事業実行委員長からは，小生在職中の商学部の思い出について，寄稿するようにとお勧めをいただいた。既に創立40周年記念の折にもそのようなお話があり，その際には学部創設時の個人的な思い出を中心に記したが，今回は，小生が商学部長の職にあった平成11（1999）年9月から平成13（2001）年8月までの商学部改革の動きについて，いくつか記すこととしたい。

2. 平成12年度のカリキュラム改革

学部長時代の最大の仕事は，平成12（2000）年度のカリキュラム改革であった。その主たる柱は，(1) セメスター制の全学に先がけての導入（専門科目），(2) 商業学科3コース制の導入および (3) カリキュラムの全般的な改革である。これらは，そもそも小島前学部長からの引継ぎ事項であったが，社会情勢および商学部に在籍する学生の学習志望傾向の変化（従来の簿記教育のみに特化する方法より情報処理関連の資格へのシフト）も考慮し，専門科目に関しては，奥村輝夫カリキュラム委員長（当時）らのご尽力のもと，情報科の免許申請を行い，関連科目を新設した。これにより，学生は商学部においても情報処理関連の科目について深く学習することができるようになったのではないかと思う。次いで，商学部商業学科の構成変更にも着手した。すなわち，①マーケティング・コース，②金融・証券・保険コース（現ファイナンス・コース），③産業システム・コース（現在はさらに細分化されていると仄聞している）に細分化することによって，学生には個々の志望業種にあった勉強がより容易になったと考えている。

これらの改革に際し，特に留意したのは，教授会員（特にカリキュラム委員だけではなくてフロアー全体）の多様な意見をどのように集約して，決断を下すかという点であった。そのため，時として教授会員からは，改革の動きが鈍すぎると御批判も受けたが，小生としては，カリキュラムの変更は教員および事務方だけでなく，学生にとっても履修計画の大幅な変更を強要するものであり負担が大きいこと，また一旦制度改正をすると，当面は大規模な変更ができない点を留意して，極力慎重に進めたつもりである。結果として，無事にソフトランディングできたのは，誠に幸運であった。

3. おわりに

なお，この学部長職時代に，小生の体調はガタガタになり，血圧が上がり，不整脈が続いて，さすがに体力の消耗を痛感することになった。その間，長時間労働をいとわず，学部運営に協力していただいた諸兄には，この場を借りて，心から御礼申し上げたい。　了